

2017年度 学校評価報告書

(自己評価・授業評価・学校関係者評価及び次年度方針)

2018年3月31日

大阪信愛学院中学校・高等学校
学校評価委員会

はじめに

学校教育法及び同施行規則に基づき、本校において学校評価を実施するため、2017年7月と12月に本校の教員に「学校自己評価アンケート」、生徒に「授業評価アンケート」を配布し、2018年2月に結果を集約しました。同時に中学校高等学校の保護者の代表役員、卒業生の代表役員、卒業生保護者の代表役員に学校関係者評価を実施していただきました。この文書は学校評価委員会が分析したものです。

本校の設立母体は、フランスに本部のある「ショファイユの幼きイエズス修道会」です。系列校は日本に4校ありますが、系列校の中で保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校そして短期大学を併設しているのは本校のみです。系列校の基本であるキリスト教的価値観に基づき、自分と他者を大切に、かけがえのない生命の尊さを体現し、隣人愛ゆえの国際教育、与えられたタレントを磨くための女性のリーダーシップを目指しています。

今回の学校評価は本校の現状及び課題を再認識する契機として位置づけ、伝統の上にたった変革を成し遂げるための有効な検証の手段としてとらえています。

1. 建学の精神

1877年、フランスからやってきた4人のシスターたちは町の中に棄てられた捨て子たちを養育することから始めました。それは「隣人を自分のように愛しなさい」というキリスト教的精神です。弱い者、困っている者、傷ついている者に手を差し伸べるという行為を実践したのです。

1884年、大阪の川口居留地に最初の女学校が創立されました。信愛に学ぶ生徒たちが信愛の精神を体得し社会に貢献できる人間になること、愛と奉仕の精神を持った人間の育成を目指します。

2. 教育目標

(1) キリスト教的価値観に基づく教育

人間はかけがえのない存在として造られ、自分の命と他者の命の尊厳を意識し、また与えられたタレントを最大限に磨き、誇りを持って自分の人生を築くよう促す。日々の朝礼のお祈り、黙想、聖書の授業、また地域社会との連携と奉仕、募金等を通して困っている人、弱い立場に置かれている人を意識することを学ぶ。

(2) 一人ひとりが輝く教育

生徒が個性と主体性を尊重し、自分で考え、判断し、行動する力を育てすべての人に対して差別したり偏見を持つことなく公平、公正にして、正義とゆるしの実践的態度を養う。

(3) 能力の開発を目指す教育

絶えず自分を越えて勉学し、知性の向上はもちろん、直観力、想像力、創造的思考力を伸長させ、芸術的感性を高めるとともに表現力を身につける。

(4) 自己形成を促す教育

基本的な生活習慣を身につけ時と場合に応じて臨機応変な対応ができるよう国際的に共通するマナーを身につけ、探求心、開拓心、挑戦することのできる心を養い生涯学習への意欲を高める。

(5) 社会貢献への態度を育成する教育

学校生活の中でよい共同体を築いていく上での協力の精神と日本のことを学びつつ、グローバルな視点で世界に目を向け、民族、国籍、宗教を越えて、弱い人、困難な状況にある人への共感と各自の使命に目覚め、奉仕への開花していくよう促す。

3. 2017年度（平成29年度）学校目標

建学の精神の具現化を目指し、本校の教育目標の達成を図るために、次の内容を重点目標に掲げて、教育活動に取り組みました。

- (1) 信愛教育の根幹である、キリスト教的価値観を伝える。
- (2) かけがえのない存在として全人的な開発を目指す。
- (3) 生きる力を育むために、確かな学力の習得を目指す。
- (4) 信愛教育にのっとり、グローバルな精神と技を培い社会と世界に貢献する。

2017年度 (平成29年度) 学校目標と具体的方策及び評価指標

	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
(1)	信愛教育の根幹である、キリスト教的価値観を伝える	①聖書を学ぶ時間と宗教行事を通してキリスト教的価値観を伝える	信愛教育に対する自己評価が80%以上
		②朝礼終礼のお祈りと講話を通して心を養う	心の教育に対する自己評価が90%以上
		③具体的に隣人愛の心を献金やボランティアで実践する	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年で毎月の目的を持った募金活動を実施する ・高1・高2での共同募金への参加100% ・東北被災地へのボランティア活動を継続する
(2)	かけがえのない存在として全人的な開発を目指す	①自己に誇りを持つための役割を担う	クラスでの役割を持っている人を90%以上
		②部活を通して身体を鍛え、技術を磨く	部活に入っている人を70%以上
		③自分の長所と短所を知り、失敗を乗り越える	5分間の黙想や宗教の授業、宗教行事等を通して自己を見つめる時間を持つ
(3)	生きる力を育むために、確かな学力の習得を目指す	①授業を基本に据え、基礎学力の向上を図る。併せて家庭学習による主体的な学びの習慣を身につける	<ul style="list-style-type: none"> ・中学：漢検で中1は5級100%、中2は4級70%、中3は3級70%の取得を目指す ・高校：スタディサポートGTZ(学力・学習習慣の到達度)B2以上の割合を5ポイント上昇させる ・授業評価(熱意が感じられる、学力が付く、授業に満足している)の項目で70%以上
		②表現する機会(文化祭、探求発表会)を通じて、主体的に学び、自分の考えを発表する能力を身につける	<ul style="list-style-type: none"> ・文化部もしくは学年レベルでの表現・プレゼンテーションする機会を提供する。文化祭、芸術鑑賞などに関する自己評価を90%以上 ・探究学習の発表を高1・高2で実施し、中学では弁論大会を実施する
		③キャリア教育を通して将来の仕事や学問に対する興味関心の喚起を図り、進路選択を考える機会を提供していく	キャリア教育は中高6年間を通して組織的系統的に行う
(4)	信愛教育にのっとり、グローバルな精神と技を培い社会と世界に貢献する	①海外修学旅行を通して、国際理解を促進するとともに国際社会への関心を深める	国際テロの影響で中断している海外修学旅行を復活させる
		②海外提携校との交流を促進することによって国際人としての素養が身につくようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹校への語学研修の参加並びに姉妹校からの研修の際のホームステイ受入れを推進する ・国際理解の推進に関する自己評価が90%以上
		③コミュニケーションツールとしての英語教育に力を入れ、読む、聞く話す能力を授業や課外の活動によって教養が広がるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・中学：英検で中1は4級、中2は3級、中3文理Iは準2級、文理IIは3級の取得を目指す ・高校：GTECのスコア平均を各学年40以上上昇させる

4. 2017年度（平成29年度）学校評価アンケートと結果分析

アンケートは、学校運営、教育内容、生徒指導、教員研修・資質向上、その他の5分野53項目について行いました。

結果と分析は以下の通りです。

項目別評価と課題

I：学校運営：私学の独自性

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2017年度 年度末 (A+B)	2017年度 中間 (A+B)
1	建学の精神について 建学の精神が教職員、生徒・保護者など、学校関係者によく浸透している	23.6%	69.1%	5.5%	1.8%	92.7%	87.7%
2	愛校心について 在校生、卒業生は学校に誇りや愛着を持っている	21.8%	67.3%	10.9%	0.0%	89.1%	87.7%
3	カトリックの教えに基づく教育 宗教に基づく教育に対する生徒・保護者の理解がある	38.9%	53.7%	7.4%	0.0%	92.6%	91.2%
4	家庭との連携 学校に対する保護者の期待・要望を把握している	12.7%	63.6%	23.6%	0.0%	76.4%	73.2%

<1>～<4>

私学の独自性に関するこの4項目は、昨年と比較すると10ポイントから20ポイント上昇している。今年度の中間と比較しても上昇している。「カトリックの教えに基づく教育」や「心の教育」が生徒に浸透してきているとの教員の意識が強まってきた結果ではないかと思われる。来年度もこの状態を継続させたい。

I：学校運営：教科課程

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2017年度 年度末 (A+B)	2017年度 中間 (A+B)
5	教育計画について 年間を通じた教育計画を各教科別に立てている	52.7%	43.6%	1.8%	1.8%	96.4%	80.7%
6	教育課程の見直し コース・類型に応じた見直しを常に行っている	35.2%	53.7%	11.1%	0.0%	88.9%	71.9%

<5> 高水準を保っているが、シラバスの充実へとつなげることも考えていきたい。

<6> この項目も中間と比較すると20ポイント近く上昇した。カリキュラム会議を繰り返し、中学・高校共に検討をしてきた結果であると考えられる。

I：学校運営：教職員連携

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2017年度 年度末 (A+B)	2017年度 中間 (A+B)
7	教員・教科間連携状況 教員間・教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている	16.4%	52.7%	29.1%	1.8%	69.1%	64.9%
8	会議の有効性 会議の内容の精選と検討事項の事前での伝達を行っている	14.5%	52.7%	21.8%	10.9%	67.3%	50.9%

<7> 70%は切ったものの、前年度から比べると10ポイント近く上昇している。校長の呼び掛けにより、PDCAのPDをチェックする時間を更に増やしたことにより、教科や分掌で話し合う機会が増え、それが教員間・教科間の相互理解の助けになったのではないかと考える。来年度も、情報や目的を共有することのできる時間を持つことで、更なるポイントアップを目指したい。

<8> 職員協議会における議案の提示、司会・書記の役割の発表を、できる限り早くすることを年間を通じて係が努力したことがポイントのアップに多少は繋がったようである。しかし、会議の精選の必要性や、会議を進行する者の準備の仕方の甘さなど問題があると教員は感じているため、評価は高くない。どの会議も目的をはっきりさせ、有意義な話し合いにするための努力や工夫を、各会議の担当者は意識する必要がある。

I：学校運営：財務関係

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2017年度 年度末 (A+B)	2017年度 中間 (A+B)
9	財務に関する意識と財務状況 学校の経営指標と財務状況について理解し、予算・決算の状況について把握している	20.0%	58.2%	14.5%	7.3%	78.2%	78.9%

<9> 今年も昨年と同様に、事務局長による中学校・高校単位での財務状況説明がなされたので昨年並みの評価となった。今後、経営指標も含め、意識を高めてきたい。

I：学校運営：情報公開

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2017年度 年度末 (A+B)	2017年度 中間 (A+B)
10	ホームページの活用状況 学校のホームページを含む情報通信ツールを用いて、可能な範囲の情報公開をしている	40.0%	45.5%	10.9%	3.6%	85.5%	87.7%
11	授業公開状況 保護者などへ授業を公開している	50.9%	47.3%	1.8%	0.0%	98.2%	98.2%

<10> ホームページへの掲載情報をクラッシーで案内することで、情報公開が定着してきた。今後も情報伝達システムを効率化していきたい。

<11> この高評価をこれからも維持していくための努力をしていきたい。

I：学校運営：危機管理

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2017年度 年度末 (A+B)	2017年度 中間 (A+B)
12	役割分担について 事故・事件・災害等に対処する役割分担や、 備蓄・設備の状況を把握している	25.5%	69.1%	5.5%	0.0%	94.5%	86.0%
13	危機管理対応状況 危機管理マニュアル、警察・消防との連携、 訓練などの安全対策は十分にとられている	23.6%	70.9%	5.5%	0.0%	94.5%	82.5%

<12>～<13>

企画・立案に関して学院の担当者会議が充実しており、各校に詳細が下りてくるのが早くなった。そのため、教員の意識も高まりそれがポイント上昇につながったものとする。

I：学校運営：開かれた学校づくり

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2017年度 年度末 (A+B)	2017年度 中間 (A+B)
14	地域交流について 地域住民との交流が行われ、行事への相互 の参加が盛んである	11.1%	55.6%	31.5%	1.9%	66.7%	68.4%

<14> 中間と比較すると僅かにポイントは減少したが、昨年度と比較すると10%以上ポイントは上がっている。以前に比べると地域住民との交流の機会は増えていると教員は認識しているが十分とは言えない。部活動における地域の人対象の親善試合や施設交流、生徒会によるヘッドネーション、Sクラブが中心となり全校生徒に呼びかけ実施している「お米ひと握り運動」など外部との交流は活発である。このように広範囲での交流をも含めて考えると、決して少なくはないがそれらの情報が教員間で共有できていないことが、ポイントが上がらない理由のひとつとする。情報の共有の大切さを感じると同時にその為の工夫を考える必要がある。

I：学校運営：広報活動

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2017年度 年度末 (A+B)	2017年度 中間 (A+B)
15	校内説明会 説明会参加者に好印象を与えるような企画・ 運営をしている	23.6%	45.5%	27.3%	3.6%	69.1%	80.7%
16	中学校・塾訪問 中学校・塾への訪問が十分であり、新規開拓 にも努めている	11.1%	42.6%	35.2%	11.1%	53.7%	61.4%
17	データの活用 教務部や進路指導部の入試状況、進路状 況などの情報を集約し、適切に活用している	25.5%	67.3%	7.3%	0.0%	92.7%	80.7%

<15> 急激なポイント減少は、アンケート実施期間が入試と重なり、入試結果が芳しくなかったことが反映したと思われる。中間のポイントが高かったのは、オープンキャンパスの集客数が昨年に比べ増加していた頃にアンケートを実施したこと起因していると考えられる。2学期以降に実施される入試説明会などに在校生を活用する、話す内容を精査し、聞く側が楽しめるような今までは一味違う企画を打ち立てていく必要があるだろう。

<16> 「まったく当てはまらない」のDのポイントが一番多い設問であった。塾に関しては、今年度は教員全員が担当地区を回る方法を取ったが、実際には時期的・時間的に動けず、回り切れなかった教員も多数いたようである。中学校の訪問は管理職・部長などで手分けして行ったが、塾に関しては継続性が大切であるにも関わらず十分に活動できていないのが現状である。中高だけでなく学院としての広報活動を展開していく必要があるとする。

<17> 以前は「各分掌の情報の集約」と表現していたものを、教務部や進路指導部の入試状況・進路状況と内容を具体的に示したところ、前年に比べて40ポイント近く上昇した。適切に活用できているので、来年もこの状態を持続していきたい。

Ⅱ：教育内容：カトリック教育

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

	評価項目	A	B	C	D	2017年度	2017年度
						年度末 (A+B)	中間 (A+B)
18	心の教育 朝礼・終礼の実施、宗教行事、宗教の授業を通して心の教育を行っている	53.7%	44.4%	1.9%	0.0%	98.1%	96.5%

<18> 高評価ではあるが、本校としては最も大切にしたい項目でもあるので、環境作りにも取り組みたい。

Ⅱ：教育内容：人権教育

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

	評価項目	A	B	C	D	2017年度	2017年度
						年度末 (A+B)	中間 (A+B)
19	研修の機会 人権教育に関するさまざまな課題や指導方法を教員が研究する機会がある	27.8%	55.6%	16.7%	0.0%	83.3%	82.5%
20	教育体制 人権尊重の教育において、さまざまな学習方法で意識を高める教育を行っている	25.5%	63.6%	10.9%	0.0%	89.1%	77.2%
21	いじめ防止対策 生徒の日常の変化を教員間で共有し、いじめの早期発見、未然防止に努めている	38.2%	60.0%	0.0%	1.8%	98.2%	96.5%

<19>～<21>

昨年度に比べると、3項目とも飛躍的にポイントが上昇した。この状態を維持すべく努力していきたい。

Ⅱ：教育内容：情報教育

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

	評価項目	A	B	C	D	2017年度	2017年度
						年度末 (A+B)	中間 (A+B)
22	情報能力育成 生徒の情報活用能力の育成を図っている	20.0%	63.6%	16.4%	0.0%	83.6%	84.2%
23	情報のモラル育成 情報の発信に伴う責任など、情報のモラルの向上のための教育を行っている	14.5%	63.6%	21.8%	0.0%	78.2%	73.7%

<22> 教育推進費が認められクロムブックを購入した。それを授業に活用することで、生徒の情報活用能力は確実に向上してきている。

<23> 今年度は、全学年対象に情報ツールに関する講習会を催すことができなかった。来年度に向けて企画はし始めているが、生徒のみならず保護者にも意識を高める機会を持ち、学校と家庭の連携を強めていく必要がある。

Ⅱ：教育内容：環境教育

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2017年度 年度末 (A+B)	2017年度 中間 (A+B)
24	環境問題意識向上 ゴミ・リサイクル・省エネなど身近な問題から環境への関心を高めるようにしている	18.2%	41.8%	38.2%	1.8%	60.0%	68.4%
25	実践的態度の育成 生徒に校内美化に取り組み、施設・設備を大切にすることを育成している	38.9%	50.0%	11.1%	0.0%	88.9%	93.0%

<24> 生徒の意識が低いように思われる。連携校の先生が環境問題の専門家でおられ、本校に対し援助を申し出て下さっている。来年度は、申し出に関して形にしていけたらと考えている。また、使用していない教室の消灯、お手洗いの消灯など工夫できる事をもっと積極的に生徒に働きかけていかねばならないと考える。

<25> 施設・設備を大切にすることを育てる努力は常々しているが、ポイントはやや減少した。高いポイントを維持する為、教員も率先して対応していきたい。

Ⅱ：教育内容：教科指導

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2017年度 年度末 (A+B)	2017年度 中間 (A+B)
26	理解度の把握 個々の生徒の学習理解度を把握し、それに応じた指導ができています	20.0%	72.7%	7.3%	0.0%	92.7%	91.2%
27	能力の伸長 コース制や選択授業・習熟度授業など、個々の生徒の能力を伸ばすための体制ができています	29.1%	60.0%	10.9%	0.0%	89.1%	82.5%
28	教育機器の利用 教育機器を十分に活用している	29.1%	47.3%	23.6%	0.0%	76.4%	73.7%
29	模試などの分析活用 模試の結果を共有し、学力向上に役立たせている	21.8%	67.3%	9.1%	1.8%	89.1%	73.7%

<26> 個々の生徒の理解力に応じた適切な指導が行われていると思われる。

<27> 生徒の能力を為す体制は整ってきたが、あまりに人数の少ない選択教科に関しては整理する必要も出ており、現在精査検討をしている。

<28> 昨年に比べると、クロムブック・電子黒板の導入など機材は増えたが、皆が使いこなせている状況ではない。教室の黒板がホワイトボードに変えられると機器の使用も活発になるかと思うが、それも厳しい状況である。

<29> 模試分析会を、全学年学期ごとに必ず実施するようにした結果、ポイントが上昇したと考えられる。

Ⅱ：教育内容：キャリア教育

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目			A	B	C	D	2017年度 年度末 (A+B)	2017年度 中間 (A+B)
30	キャリア教育の推進	中学1年から高校3年まで、6年間を通して、組織的・系統的にキャリア教育を取り入れている	32.7%	47.3%	16.4%	3.6%	80.0%	73.7%
31	進路指導	生徒一人ひとりの興味・関心・適正に応じた進路選択ができるような指導体制がある	25.5%	60.0%	12.7%	1.8%	85.5%	82.1%
32		併設短大や協定校との連携が整い、適切な進路指導を行なっている	40.0%	52.7%	7.3%	0.0%	92.7%	89.5%

<30> 昨年度の「6年間のキャリア教育についてのシラバスを作成し、周知徹底していく。」との振り返りを実践した結果、ポイントは大きく上昇した。

<31> 進路指導部・学年・担任が一丸となり、生徒の進路に合わせた指導を行った結果ポイントは上昇した。

<32> 併設短期大学との連携が更に充実してきたことによる高評価と考える。

Ⅱ：教育内容：学校行事

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目			A	B	C	D	2017年度 年度末 (A+B)	2017年度 中間 (A+B)
33	スポーツ活動	体育大会・球技大会などのスポーツに関する学校行事が盛んである	72.2%	25.9%	1.9%	0.0%	98.1%	100.0%
34	文化・芸術活動	文化祭、芸術鑑賞などの文化・芸術活動に関する学校行事が盛んである	67.3%	30.9%	1.8%	0.0%	98.2%	98.2%
35	校外学習	遠足・修学旅行・自然体験などの行事が充実している	61.8%	34.5%	3.6%	0.0%	96.4%	98.2%

<33>～<35>

高評価であることに甘んじず、更なる創意工夫をしていきたい。

Ⅱ：教育内容：国際教育

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目			A	B	C	D	2017年度 年度末 (A+B)	2017年度 中間 (A+B)
36	国際理解の推進	海外研修や姉妹校交流を含め、他国の歴史の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を行っている	58.2%	38.2%	3.6%	0.0%	96.4%	91.2%

<36> オーストラリア・ラザホール高校との20年に及ぶ交流の他、新たな試みとしてアローシャス中学高校の他複数の学校との提携により、3ヶ月・1年の留学の体制が整ってきた。国際理解の推進は着々と行われている。

Ⅱ：教育内容：特別活動

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2017年度 年度末 (A+B)	2017年度 中間 (A+B)
37	部活動 部活動が活発である	69.1%	29.1%	1.8%	0.0%	98.2%	98.2%
38	生徒会活動 生徒会活動や委員会活動を通して、生徒が主体的に活動できる体制が整っている	34.5%	60.0%	5.5%	0.0%	94.5%	91.2%

<37> 生徒の入部率も高く、高評価である。部活動をしたくて本校を選んだ中学生もいるので、より活動しやすい環境を整える必要もある。

<38> 今年度も生徒会は自主的・主体的な活動を展開していた。更に活動の場・機会を持てるよう学校としてもバックアップしていきたい。

Ⅱ：教育内容：その他

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2017年度 年度末 (A+B)	2017年度 中間 (A+B)
39	図書館の利用推進 読書や探究学習など、図書館の利用促進に取り組んでいる	32.7%	49.1%	14.5%	3.6%	81.8%	82.5%
40	ボランティア 被災地支援を継続的に行い、困難に遭っている人々への関心を持ち、チャリティなどを含めたボランティア活動を積極的に行っている	50.9%	43.6%	5.5%	0.0%	94.5%	96.5%

<39> ポイントは年々増加している。総合学習における連携が図書館利用に繋がり、評価を上げたと考えられる。現在はネット環境が整っておらずやや不便なこともあるが、来年度よりその点は改善される予定であるので、評価はさらに高くなるものと期待できる。

<40> 東北への被災地訪問は今年も継続された。活動報告も行われ全生徒がボランティアの気持ちを共有できている状況である。

Ⅲ：生徒指導・支援：生徒指導

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2017年度 年度末 (A+B)	2017年度 中間 (A+B)
41	指導方針の一貫性 学校の生徒指導は一貫した方針を持っており、また個々の生徒の状況に応じた指導を組織的に行なっている	30.9%	54.5%	14.5%	0.0%	85.5%	89.5%

<41> 高い評価は維持できている。今年度途中より実施された頭髪規定の改正やそれに伴う指導、来年度から変更される制服に関する指導など、今までになかった生徒へのアプローチに力を入れていきたい。

Ⅲ：生徒指導・支援：生徒支援

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

	評価項目	A	B	C	D	2017年度 年度末 (A+B)	2017年度 中間 (A+B)
42	学校生活について 個々の生徒の実態に合わせた支援について、工夫・改善を行っている	32.7%	56.4%	10.9%	0.0%	89.1%	87.7%
43	障がい者支援 障がい者に対する適切な支援を行っている	36.4%	58.2%	3.6%	1.8%	94.5%	89.5%
44	支援コーディネーターを配置し、支援の必要な生徒に対する情報を交換し、共有する体制がある	45.5%	50.9%	3.6%	0.0%	96.4%	91.2%
45	教育相談 スクールカウンセラーを配置し、生徒や保護者の支援に積極的に取り組んでいる	63.6%	36.4%	0.0%	0.0%	100.0%	98.2%
46	保健・衛生 体調不良・怪我等をした生徒への対応は適切である	61.8%	38.2%	0.0%	0.0%	100.0%	98.2%
47	保健室の機能は十分に果たされている	67.3%	29.1%	3.6%	0.0%	96.4%	94.7%

<42>～<45>

教育相談会議を毎週行っていることで、他学年の生徒の様子が把握しやすくなった。会議の場に養護教諭・カウンセラーも同席することで連携が図られ、現場で生徒に対応することがスムーズにできるようになった。

<46>～<47>

保健センターとして組織的取り組みが充実してきており、素早い対応に教師も生徒も安心して保健室を利用することができている。

IV：教員研修・資質向上：教員研修

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2017年度 年度末 (A+B)	2017年度 中間 (A+B)
48	教員の資質向上について 教員間で授業内容を評価し、意見の交換などを行う機会がある	21.8%	58.2%	20.0%	0.0%	80.0%	61.4%
49	校内研修 教員の資質向上につながる研修計画のもと、適宜、研修が行なわれている	20.0%	52.7%	23.6%	3.6%	72.7%	57.9%
50	サポート状況 初任者及び本校における勤務経験の少ない教員をサポートする体制がある	11.1%	40.7%	38.9%	9.3%	51.9%	47.4%
51	校外研修 教員が校外研修に参加できる体制が整っている	10.9%	41.8%	36.4%	10.9%	52.7%	54.4%
52	研修結果の共有 研修、研究に参加した成果を、教員間で共有する体制がある	10.9%	34.5%	47.3%	7.3%	45.5%	43.9%

<48>～<49>

ICT及びアクティブラーニング(AL)の委員会を立ち上げ、校内研修を2回学校全体で行った結果の高評価であろう。研修を継続することで教員間での評価や意見交換がより活発になると思われるので、来年度も実施していきたい。

<50> 勤続1年目の教員に対しては、週1回定期的に管理職及び各部長より研修を行ってきたものの、「初任者研修」が制度として確立していない。「初任者」の定義を1年に絞らず、3年程度と考え、或いは勤続年数が少ない非常勤も含めると考えて、定期的な研究授業の実施、各初任者専任の指導者を決めて継続的・実質的なシステムを構築していく必要性を感じる。

<51> 制度としては整っているが、研修が平日の夜、土曜の午後や日曜日に設定されている場合が多く、参加するにはかなりのエネルギーが必要になる。研修で出張する場合の扱いが業務扱いにならないかの基準を明確に教員が判断できないことも、活発に研修に参加する雰囲気にならない原因のひとつである。各個人の専門分野のスキルアップの研修は自費であっても仕方ないが、業務や分掌担当に関わるものなどが個人負担にならないような経営サイドのバックアップが必須である。

<52> 昨年は研修参加後に報告する機会を何回か設けたが、今年度は2学期最初に1度設けるに止まってしまった。僅かながらポイントが上昇したのは、その1回を記憶に留めていた者がいたからかもしれない。昨年度のように、もう一度研修の報告をする機会を設定し、その充実を図りたい。

V：その他：接遇

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

評価項目		A	B	C	D	2017年度 年度末 (A+B)	2017年度 中間 (A+B)
53	職員の対応姿勢 保護者や来校者への対応が適切である	12.7%	81.8%	5.5%	0.0%	94.5%	87.7%

<53> Bの「やや当てはまる」が80%を越える回答であった。教員の自己評価は高いが、客観的に見ると決して十分であるとは言えない。今後「マナー講座」をなどの機会を持つ事で質の向上を図りたい。

5. 2017年度（平成29年度）生徒授業評価アンケートの報告

アンケートの評価観点は10項目で、生徒が受講している全教科・全科目を対象に実施しております。生徒たちの集中力を考慮して、項目が多くなりすぎないように心がけました。また、アンケートの結果は、全教員に配布し、今後の教育活動に活かすよう努めております。

授業評価アンケート 結果<2017年12月実施分> 中学校・高等学校 全体

授業評価アンケート 結果 <2017年12月実施分>

全体

	A	B	C	D	2017年度 A+B	2017中間 A+B	2016年度 A+B	2016中間 A+B
授業の開始・終了の時間が守られている	73.6%	17.9%	5.7%	3.0%	91.5%	92.4%	92.0%	93.7%
先生の熱意が感じられる	59.1%	30.1%	7.8%	3.0%	89.2%	90.1%	87.7%	88.2%
話し方がハッキリしてわかりやすい	59.6%	26.2%	10.3%	3.9%	85.7%	86.3%	84.5%	84.9%
板書がハッキリしてわかりやすい	54.3%	28.5%	12.2%	4.9%	82.9%	83.6%	80.1%	80.9%
その日の授業で何が重要なかがわかる	48.2%	33.0%	13.9%	4.9%	81.2%	82.0%	80.2%	81.1%
この先生の授業を受けると力がつく	46.2%	35.3%	13.5%	5.0%	81.5%	81.9%	79.8%	80.5%
授業に集中できる	52.3%	32.5%	11.1%	4.1%	84.8%	84.0%	82.3%	82.7%
この教科・科目の予習・復習の仕方がわかる	39.5%	31.8%	19.4%	9.2%	71.3%	71.2%	70.9%	70.3%
よくほめられる、励まされる。 また、適切な注意指導もある。	48.2%	32.0%	14.1%	5.7%	80.2%	79.9%	78.1%	77.8%
この先生の指導に満足している	54.6%	31.7%	9.3%	4.3%	86.3%	86.3%	83.9%	85.0%

A：よくあてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

授業評価アンケート 結果<2017年12月実施分> 中学校

授業評価アンケート 結果 <2017年12月実施分>

中学校

	A	B	C	D	2017年度 A+B	2017中間 A+B	2016年度 A+B	2016中間 A+B
授業の開始・終了の時間が守られている	75.5%	17.0%	4.7%	3.4%	92.6%	93.3%	92.3%	93.2%
先生の熱意が感じられる	59.2%	28.6%	7.7%	4.6%	87.7%	88.0%	86.7%	85.6%
話し方がハッキリしてわかりやすい	64.5%	22.7%	8.0%	4.7%	87.3%	87.7%	86.0%	85.6%
板書がハッキリしてわかりやすい	58.0%	26.2%	10.5%	5.3%	84.2%	85.1%	83.9%	82.8%
その日の授業で何が重要なかわかる	46.5%	31.3%	14.6%	7.6%	77.8%	80.6%	81.2%	80.8%
この先生の授業を受けると力がつく	44.6%	34.6%	13.4%	7.4%	79.2%	79.5%	81.1%	79.6%
授業に集中できる	49.8%	33.2%	10.2%	6.7%	83.0%	82.0%	81.9%	80.8%
この教科・科目の予習・復習の仕方がわかる	36.8%	30.1%	20.0%	13.2%	66.8%	68.6%	71.2%	69.2%
よくほめられる、励まされる。 また、適切な注意指導もある。	46.3%	29.4%	15.9%	8.4%	75.7%	74.3%	75.8%	74.1%
この先生の指導に満足している	54.1%	30.7%	9.0%	6.2%	84.8%	85.0%	84.6%	83.4%

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

授業評価アンケート 結果<2017年12月実施分> 高等学校

授業評価アンケート 結果 <2017年12月実施分>

高校

	A	B	C	D	2017年度 A+B	2017中間 A+B	2016年度 A+B	2016中間 A+B
授業の開始・終了の時間が守られている	72.8%	18.2%	6.1%	2.9%	91.0%	92.0%	91.9%	93.9%
先生の熱意が感じられる	59.1%	30.7%	7.9%	2.3%	89.8%	90.9%	88.1%	89.2%
話し方がハッキリしてわかりやすい	57.5%	27.6%	11.3%	3.6%	85.1%	85.8%	83.9%	84.7%
板書がハッキリしてわかりやすい	52.9%	29.5%	12.9%	4.7%	82.3%	83.1%	78.7%	80.2%
その日の授業で何が重要なかがわかる	49.0%	33.7%	13.6%	3.8%	82.6%	82.5%	79.8%	81.2%
この先生の授業を受ける力がつく	46.9%	35.6%	13.5%	4.0%	82.5%	82.9%	79.4%	80.9%
授業に集中できる	53.3%	32.2%	11.4%	3.0%	85.5%	84.9%	82.5%	83.5%
この教科・科目の予習・復習の仕方がわかる	40.7%	32.5%	19.2%	7.6%	73.2%	72.2%	70.8%	70.7%
よくほめられる、励まされる。 また、適切な注意指導もある。	49.0%	33.0%	13.3%	4.6%	82.0%	82.2%	78.9%	79.3%
この先生の指導に満足している	54.8%	32.2%	9.5%	3.5%	87.0%	86.8%	83.7%	85.6%

A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

6. 2017年度（平成29年度） 自己評価及び次年度の課題と改善策

【自己評価】 A：達成できた B：概ね達成できた C：やや課題を残した D：課題を残した

評価項目（1） 信愛教育の根幹である、キリスト教的価値観を伝える	自己評価
<p>具体的方策① 聖書を学ぶ時間と宗教行事を通してキリスト教的価値観を伝える <活動実績と自己評価> 全学年全クラスにおいて週1時間の宗教の授業があり、聖書に触れている。1年を通して4回のミサを実施した。教員の自己評価アンケートにおいても92.6%の肯定的な評価であった。 <次年度の課題と改善策> 現状の評価が高く、この水準を維持していくように努めていく。</p>	A
<p>具体的方策② 朝礼終礼のお祈りと講話を通して心を養う <活動実績と自己評価> 毎朝の職員朝礼は聖書朗読から始まる。全校生徒の朝礼終礼においてお祈りと聖歌を必ず実施している。また、ほぼ毎日の朝礼では教員の講話を実施した。教員の自己評価の結果も肯定的な評価98.1%であった。 <次年度の課題と改善策> 本校としては最も大切にしたい項目でもあるので、更なる環境づくりにも取り組みたい。</p>	自己評価 A
<p>具体的方策③ 具体的に隣人愛の心を献金やボランティアで実践する <活動実績と自己評価> 東北ボランティアでは希望者が一学期終了時に現地で活動し、二学期の始業式で全校生徒に報告した。献金は毎月、実施した。高1・2は全員、赤い羽根共同募金に参加した。生徒会役員にボランティアリーダーを作り、ヘアドネーションを呼び掛け、実施した。Sクラブやハンドベル部などの部活動においても募金活動やチャリティーコンサートを実施した。 <次年度の課題と改善策> 次年度も同じような形で活動するのと、さらに生徒が自発的にできることを研鑽していきたい。</p>	自己評価 A
評価項目（2） かけがえのない存在として全人的な開発を目指す。	自己評価
<p>具体的方策① 自己に誇りを持つための役割を担う <活動実績と自己評価> クラスでの委員の数は16名であるが、残りの生徒は必ず何らかの係に属してクラス運営に貢献している。 <次年度の課題と改善策> 数値目標は達成しているが、クラスで委員や係になっていても、具体的な活動をする生徒は少ないと感じる。自主的・積極的に行動する生徒を育成したい。</p>	C
<p>具体的方策② 部活を通して身体を鍛え、技術を磨く <活動実績と自己評価> 部活に入部している生徒の割合は73%である。 <次年度の課題と改善策> 部活動に入部してどのような人間に成長しているかの指標が具体的でないので、生徒の満足度を調べる必要がある。</p>	自己評価 A
<p>具体的方策③ 自分の長所と短所を知り、失敗を乗り越える <活動実績と自己評価> 毎日、朝礼前と5時限目前に5分間の沈黙の時間を実施した。宗教の授業は中1から高3まですべての学年で週1時間の授業がある。そして、年間に4回の宗教行事を実施した。 <次年度の課題と改善策> 毎朝、毎昼の沈黙の時間は導入して3年目である。年々成果が上がっては来ていると感じるが、学年やクラスによって差があることも事実である。ただ単に静かにするのではなく、自己を見つめる深い沈黙になるよう工夫が必要である。</p>	自己評価 B

<p>評価項目（3） 生きる力を育むために、確かな学力の習得を目指す</p>	<p>自己評価</p>
<p>具体的方策① 授業を基本に据え、基礎学力の向上を図る。併せて家庭学習による主体的な学びの習慣を身につける <活動実績と自己評価> "漢検中1での5級の取得率が90.2%、中2での4級の取得率が76%、中3での3級の取得率50.9%になった。スタサポでは、B2以上が高1の1回目で33%、2回目で27%、高2の1回目で28%であった。授業評価アンケートでは「熱意が感じられる」は89.2%、「学力がつく」は81.5%、「授業に満足している」は86.3%であった。 <次年度の課題と改善策> "漢検において中2は目標に達成できたが、中1・3は達成できなかった。その要因を探り、来年度向上させたい。スタサポにおいて残念ながら逆に下がってしまった。その結果が、授業評価アンケートにも反映されている。コースや教科ごとに分析し、来年度改善したい。</p>	<p>C</p>
<p>具体的方策② 表現する機会（文化祭、探求発表会）を通じて、主体的に学び、自分の考えを発表する能力を身につける <活動実績と自己評価> 文化祭においてステージ部門において各部の演奏やダンス等のパフォーマンスを発表し、日ごろの活動を発表した。事項評価が98.2%になった。総合学習において高1はグループによるポスターセッション、高2は各自でテーマを決めた論文づくりをした。中学では学年ごとにテーマを決めて、総合学習に取り組んだ。また、弁論大会や合唱コンクール、英語暗唱大会、カルタ大会等で発表した。 <次年度の課題と改善策> 次年度も同じような形で活動するのと、さらに生徒が自発的にできることを研鑽していきたい。</p>	<p>自己評価 A</p>
<p>具体的方策③ キャリア教育を通して将来の仕事や学問に対する興味関心の喚起を図り、進路選択を考える機会を提供していく <活動実績と自己評価> 中学では職業人の講演会として警察の白バイ隊の隊員・印刷会社の女性従業員・医師をしている卒業生に来てもらって、「はたらく女性」について講演してもらった。高1では大学見学ツアー・大学体験の中で、大学や学部をそれぞれ自分たちで選び、進路に向けて考えさせた。「キャリア教育の推進」では自己評価が80.0%になった。 <次年度の課題と改善策> 来年度はさらに90%以上の自己評価を目指し、生徒・保護者の満足度の調査もしてみたい。</p>	<p>自己評価 A</p>

<p>評価項目（４） 信愛教育にのっとり、グローバルな精神と技を培い社会と世界に貢献する</p>	<p>自己評価</p>
<p>具体的方策①海外修学旅行を通して、国際理解を促進するとともに国際社会への関心を深める <活動実績と自己評価> 高１が高２になったときに実施する修学旅行をハワイに決定した。 <次年度の課題と改善策> ハワイの修学旅行は初めてなので、事前学習を含めて内容を深め、教育効果を高めたい。</p>	<p>A</p>
<p>具体的方策② 海外提携校との交流を促進することによって国際人としての素養が身につくようにする <活動実績と自己評価> 姉妹校であるオーストラリアのラザホール校へ夏に 10 人が留学し、秋にはラザホール校から日本に 12 人を受け入れた。また、本校からラザホール校への 3 か月留学をする生徒はいなかったが、ラザホール校から本校には 2 人受け入れた。国際協力の理解に関する自己評価は 96.4% になった。 <次年度の課題と改善策> ホームステイの受け入れ家庭が少なかったので、複数の生徒が同じ家庭にいる状況ができ、母国語で話ってしまう機会ができて日本語習得の妨げになった。生徒たち、保護者達に国際教育をさらに深めて受け入れ家庭の数を確保できるようにしたい。</p>	<p>自己評価 B</p>
<p>具体的方策③ コミュニケーションツールとしての英語教育に力を入れ、読む、聞く話す能力を授業や課外の活動によって教養が広がるようにする <活動実績と自己評価> 中学校では Active English、高校では Practical English の全授業を確保し、授業内で積極的に英語を使っている。英検では中 3 の文理 I では準 2 級以上が 71%、文理 II は 3 級以上 53% を取得した。高校では GTEC で学年スコア平均の推移は高 2+19、高 3+57 となり、学年によって評価指標目標の達成度が異なった。 <次年度の課題と改善策> 高校生の英語 4 技能を測る指標が GTEC だけでは不十分なので、英検の全員受験を導入したい。中学生の英検の取得率の向上を目指すため、授業の内外での対策を強化する。GTEC のスコア平均の上昇が学年によってばらつきがあるため、結果だけでなく、スコア上昇を達成した方策を学年を超えて共有し、実行したい。</p>	<p>自己評価 B</p>

7. 学校関係者評価を踏まえた次年度方針

2017年度の重点項目は、私学の独自性、キリスト教的価値観を伝え、社会に貢献する態度の育成と自分に誇りを持ち全人的な人格の陶冶を実践すること、生きるために確かな学力の醸成と信愛女学院の精神に当初から求めているグローバルな視点で社会と世界に貢献する人物の育成に全力を注ぐことです。今回の学校関係者（教育会の役員2名、同窓会の役員2名、後援会の代表者2名、合計6名）にいただいた評価を真摯に受け止め、今後の教育活動に生かして行きます。

(1) 学校全体の印象や総合満足について

- ①本校に入学して卒業していく生徒に対してのアンケートは約94パーセントがよかったと回答しており、学校生活に対する満足度は高い水準にあります。しかし、本校を卒業していった同窓生や後援会の役員の方々は、現在の信愛生の姿には以前よりも厳しさが無いというご意見をいただいております。生徒の制服を美しく着こなすことや日ごろのマナーの実践のあり方などにも取り組んでいきます。
- ②信愛生は概ね思いやりの精神や奉仕の精神があるとの評価を受けていますが、信愛の精神である「隣人愛」と「公共心」の質を高めるために指導方法や諦めない心を引き続き心がけていきます。

(2) 確かな学力の醸成について

- ①入学してきたときよりも学力を伸ばすことは、本校の取り組むべき重要な課題ではありますが、その点については関係者の方々からも厳しい指摘を受けています。学習意欲、学習に対する姿勢や学習の目的について、主体的に考えて勉学に勤しむように支援していきます。
- ②授業アンケートの結果、授業には満足しているということが全体の平均では80.6%ですが、授業内容及びその方法を改善するため、進路指導との連携を図り、将来を見据えた学習指導の充実を図って行きます。

(3) 進路指導について

- ①本校に入学してくる生徒と保護者は指定校に対して強い関心を抱いており高校3年生の約50%が進学先を早く決めてしまうことによる弊害があるのではないかというご意見でした。国公立や一般入試を目指す生徒のモチベーション維持に力を注ぎます。
- ②キャリア教育については6カ年間の計画を立てて準備していますが、進路指導と担任の教師たちへの周知徹底できるように検討して行きます。

8. 2018年度の教育改善PDCAサイクルのイメージ

2018年度平成（30年度）教育改善PDCAサイクルのイメージ

P

- 1 女性リーダーの育成
- 2 学力向上のための自主的な学習習慣の定着
- 3 グローバル化につながる英語教育の充実



D

- 1 生徒会活動・部活動のさらなる充実
- 2 朝礼を延長し、聞く・書く・読む・話すの4技能を培う
勉学と部活動の両立の推進
- 3 オーストラリア研修の継続と充実、ハワイ修学旅行の
内容の充実
英検、GTECスコアのグレードアップ



C

- 1～3 教員対象のアンケートに加えて、生徒・保護者対象の
アンケートを実施する



A

- 1～3のアンケート結果を踏まえて
- 1 女性リーダーの育成につながる具体策を更に検討し実行する
 - 2 学力向上のための自主的な学習習慣の定着につながる具体策
を更に検討し実行する
 - 3 グローバル化につながる英語教育の具体策を更に検討し
実行する